

◆盛岡市遺跡の学び館 第三回企画展

生活の中の考古学

「道具から見た昔のくらし」

盛岡市遺跡の学び館

ごあいさつ

私たちの生活は工業技術の発展にともない、便利な生活用具が次々と生み出されたことにより大きく変化してきました。

今回の企画展では、出土した考古資料や民具を中心とした生活用具を取り上げ、縄文時代から現代に至るまで、私たちの日常生活がどのように変化してきたのかを見つめていきます。

さらに、道具の移り変わりだけではなく、それぞれの道具に見られる工夫や、昔の人々が限られた資源をいかに有効に活用し生活していたのかを紹介します。

最後になりましたが、この企画展を開催するにあたりまして、貴重な資料をこころよく出展くださいました関係諸機関をはじめ、多くの皆様から多大なご協力をいただきました。ここに、深く感謝の意をあらわすとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年11月

盛岡市遺跡の学び館

■ 盛岡市遺跡の学び館 第3回企画展

会 期／平成17年11月1日(火)～平成18年1月22日(日)

会 場／盛岡市遺跡の学び館 企画展示室

主 催／盛岡市遺跡の学び館

後 援／岩手考古学会、岩手史学会、岩手日報社、朝日新聞盛岡総局、読売新聞東京本社盛岡支局、毎日新聞盛岡支局、時事通信社盛岡支局、共同通信社盛岡支局、河北新報社盛岡総局、日本経済新聞社盛岡支局、産業経済新聞社盛岡支局、デーリー東北新聞社、岩手日日新聞社、盛岡タイムス社、NHK盛岡放送局、IBC岩手放送、テレビ岩手、めんこいテレビ、岩手朝日テレビ 岩手ケーブルテレビジョン、FM岩手、ラヂオ盛岡、月刊アキュート、マ・シェリ、情報紙游悠

■ 特別講演会

講 師／盛岡大学教授 熊谷常正 氏

演 題／「ヒトは道具を使ってきた」

日 時／平成17年11月13日(日) 13時30分～15時30分

会 場／盛岡市遺跡の学び館 研修室

凡 例

- 1 本書は盛岡市遺跡の学び館第3回企画展「生活の中の考古学—道具から見た昔のくらし—」の展示図録である。
- 2 本企画展及び図録の企画・執筆・編集は、当館職員 三浦 見・佐藤和男・室野秀文・今野公顕・佐々木亮二・松川光海・鷹鷲あゆみ・齋藤麻紀子の協力を得て三浦陽一が編集した。
- 3 展示資料名については、所蔵者・報告者が使用する名称と異なる場合がある。
- 4 本書の資料掲載順序は、展示の順序と必ずしも一致しない。また、展示資料が本図録と一致しない場合がある。なお、巻末に展示資料一覧表を掲載した。
- 5 本書に掲載された資料のうち、所蔵・提供者名の記載のないものは、当館撮影のものである。当館撮影の資料については、当館職員三浦陽一がおこなった。
- 6 本書に掲載された資料のうち、市町村名が記されていないものは、全て盛岡市内出土、および市内在住の方より寄託されたものである。
- 7 企画展開催及び展示図録作成にあたり、次の機関・方々よりご指導・ご協力をいただいた。

■ 機関 (五十音順)

岩手県、岩手県埋蔵文化財センター、一戸町教育委員会、財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター、江刺市教育委員会、えさし郷土文化館、御所野縄文博物館、陸前高田市教育委員会、都南歴史民俗資料館、盛岡市教育委員会文化課

■ 個人 (敬称略)

熊 谷 常 正 佐 藤 正 彦 溜 浩 二 郎 千 田 和 文
遠 野 い ず み 中 川 重 紀 中 村 明 央 野 坂 晃 平

目 次

ごあいさつ

凡例

I	狩り・漁・農耕	2
II	火をたく・煮る	6
III	木を伐る・切る	12
	関連年表	14
	展示資料一覧	16
	引用・参考文献	17

I 狩り・漁・農耕

人は食料となる動物や植物を得るため、道具をつくりだしました。
 道具は獲物の種類や大きさにより、さまざまな種類のものでつくりだされました。
 ただ採集するだけでなく、育てて収穫する「農耕」の登場は、緩やかではありましたが縄文時代以来の食文化に影響を与え、農耕具の発達は農地の拡大や生産効率を向上させました。
 ここでは「狩り・漁」、「農耕」に使われた道具の移り変わりをみていきます。

狩り・漁

食糧を得るために人類が使った道具の中で、最も古くから使われたのは石器や木の棒のようなものであったと考えられています。

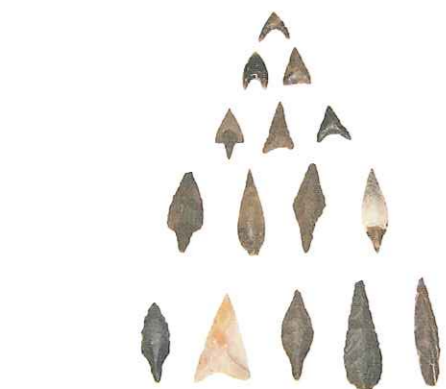
狩猟の際、人々は石槍や弓矢を使い狩猟をおこなっていました。

また漁では、骨や角を加工した釣り針や銚などを使ったほか、網をしかけた漁をおこなっていました。

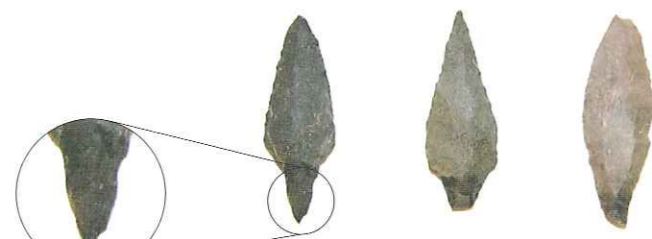
さらに、古代以降になると鉄製の銚や釣り針を使って漁をしたこともわかっています。



弓矢（複製品）



石鏃
大館町遺跡出土 縄文時代中期



アスファルトのついた石鏃
湯壺遺跡出土 縄文時代晩期

やじりを矢の先につけるためにアスファルトを接着剤として使用した痕跡があるものも見つかっています。

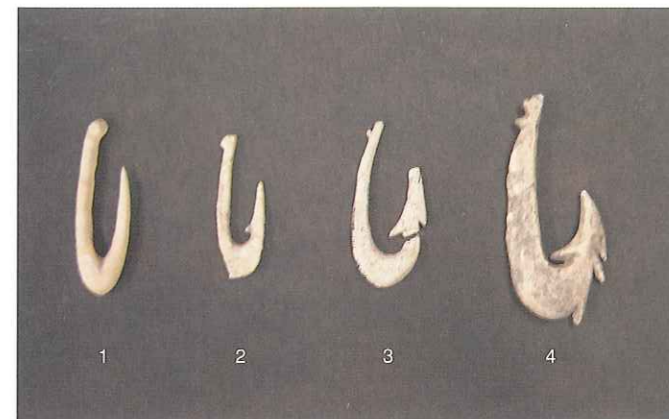


アスファルトの入った土器
川目A遺跡出土 縄文時代晩期

釣り針は通常「し」の形をしており、魚の口や体からはずれにくくするために「かえし」がついているものもあります。

縄文時代の遺跡からは骨や角で作られた釣り針が出土しています。

また、奈良時代以降の遺跡からは鉄や青銅でつくられたものも出土しています。

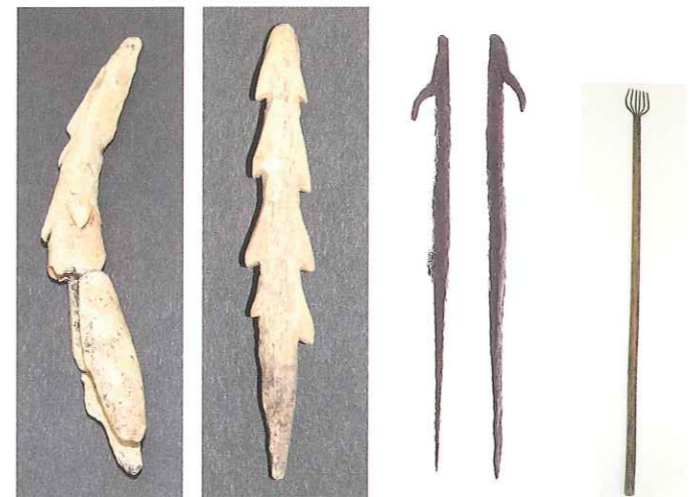


釣り針（骨角器）

- 1・2 陸前高田市中浜沢貝塚出土 縄文時代中期
- 3 陸前高田市門前貝塚出土 縄文時代後期
- 4 大船渡市大洞貝塚出土 縄文時代晩期



鉄製釣り針 宮古市島田II遺跡出土 平安時代
 青銅製釣り針 里館遺跡出土 中世以降
 現代の釣り針



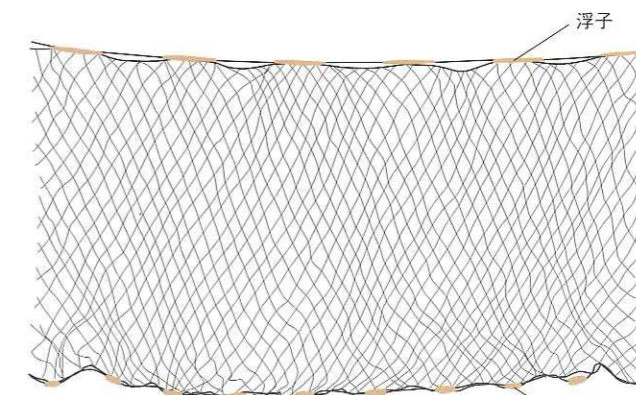
銚頭（骨角器） [回転式離頭銚] 陸前高田市 中浜沢貝塚出土 縄文時代晩期
 銚頭（骨角器） [固定銚] 大船渡市 大洞貝塚出土 縄文時代晩期
 鉄製銚頭 堰根遺跡出土 平安時代
 ヤス 近～現代

ヤスは柄を手に持ったまま獲物を突き刺す道具で、柄の先は、鋭く先別れしています。

柄を持って投げるもので、獲物に命中すると銚の先にある「かえし」がついているので抜けなくなるしくみになっています。



石錘 紫V遺跡出土 縄文時代中期
 土錘 堰根遺跡出土 平安時代



網の復元図

網は、縄文時代から使われ、石や土でできた錘を組み合わせた、投網や刺し網などが使われていたようです。

II 火をたく・煮る

料理をつくる場所……台所にはご飯を炊く炊飯器や味噌汁をわかす鍋やコンロ、おかずをあたためるレンジなどたくさんの道具があります。

人類の進化とともに、火を使うことは、「食べられなかったものを食べられるようにする」という目的に使われるようになりました。大昔にはたき火であぶって料理していたものが、最近では指示通り材料を入れ、ボタン一つで料理が出来上がる電子レンジや温度調節が簡単にできる電磁調理器が登場するなど、台所の様子はここ数十年のうちに大きく変わってきました。

ここでは、火の使われ方と使われた道具の変化についてみていきます。

炉

炉は煮炊きをするほか、体や住居の中を暖めるために火をたいたところです。多くが堅穴住居のほぼ中央か奥まったところにつくられています。

旧石器時代には炉は屋外にしかなかったのですが、時代とともに屋内へ持ち込まれてきます。炉は、たんに地面を浅く掘って火を燃やす地床炉から、石で囲んだ「石囲炉」や土器を埋設した「埋甕炉」などがあります。



縄文時代中期の堅穴住居跡
(川目C遺跡)



地床炉 (大館町遺跡)



石囲炉 (大館町遺跡)



複式炉 (柿ノ木平遺跡)

土器の発明

土器の発明により、ドングリなどの木の实を煮てアクを抜くことや、さまざまな調理のために使われるようになり、人々は自然の恵みをおおいに受けることができるようになりました。

現在わかっている一番古い煮炊きの道具は、約12,000年前（縄文時代草創期）の土器です。これらの土器は底がとがっており、置いて使うことはせず、地面にさして使っていたと考えられます。



尖底深鉢 (沈線文土器)
大新町遺跡出土 縄文時代早期



尖底深鉢 (縄文土器)
畑遺跡出土 縄文時代前期



深鉢
大館町遺跡出土 縄文時代中期



キャリパー形深鉢
大館町遺跡出土 縄文時代中期



深鉢
湯壺遺跡出土 縄文時代晩期



甕
紫 VI 遺跡出土 弥生時代

III 木を伐る・切る

日本は山林が多く、木材は重要な資源でした。人々は住まいをつくるため、土を掘り、木を切り倒し、屋根をふいていました。切り倒した木材には、ほぞ穴をあけたり、木を切ったり削ったりして、斧の柄の部分や鋤の風呂の部分などを作ったりといった使い勝手をよくするため加工する必要もありました。

ここでは、「木を伐る・切る」道具について変化を追ってみます。

縄文時代には、住居に使われている柱材を石器で切り倒していました。その後鉄製品の出現により、鉄斧で木を切るようになります。

その後、作業の内容に応じて道具は進歩していき、太い幹を切り倒すための斧、材料を切り分けるための鋸、まきを割ったりするためのまさかりやナタなど多種多様な道具が使われるようになっていきました。



磨製石斧装着復元

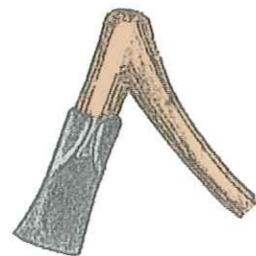
斧は、鋸が使われるようになるまで、木を切り倒したり、丸太を割ったり、削ったりすることに使われました。



磨製石斧
大館町遺跡ほか出土
縄文時代中期



鉄斧
薬師社脇遺跡出土
古墳時代



鉄斧
近～現代

鋸は木を伐採したり木材の加工や製材に使う道具です。

外国の鋸は前に押して切りますが、日本の鋸は手前に引いて切りますので、鋸で切ることを「引く」といいます。



のこぎり
鋸
一戸町太平遺跡出土 平安時代



木挽鋸
近～現代



なた
鉋
一戸町上野遺跡出土 平安時代



鉋
都南歴史民俗資料館所蔵 近～現代



現代の鋸



チェンソー
現代



現代の鉋

鉋は、木や竹を割ったり、まきを割ったり、枝打ちをするために使われています。

古い鉋には、刃こぼれを防ぐための刃先に出っ張りがあります。